

埼玉県指定有形文化財「古瓦」武蔵国分寺関係資料について

宮原正樹

1 はじめに

県指定有形文化財考古資料「古瓦」は、明治から昭和の考古学者柴田常恵が各地から収集した白鳳期から近世までの古瓦で、昭和30年11月1日に指定されたものである。採集地は、九州から東北の古代寺院、国分寺、官衙、城柵、窯跡など多岐にわたり、一部に朝鮮半島の資料も含まれている。

これらの資料は、秩父郡長瀬町野上に所在した長瀬総合博物館において、長瀬総合博物館の前身の「吸古館」を開設した地元の眼科医塩谷覚三郎が収集したコレクションとして保管、展示され、平成25年の閉館に伴い、埼玉県立さきたま史跡の博物館に寄贈された。塩谷が柴田の収集した資料を入手した経緯は不明であるが、「古瓦」の指定に関連してまとめられたとみられる「塩谷覚三郎氏所蔵全国古瓦目録」には、柴田が収集した資料であること、採集地は柴田の記録を基本として確証のあるものだけを示していることが記されている。さらに、本資料は、國學院大學が公開している「國學院大學デジタルミュージアム－柴田常恵瓦拓本資料」と一致しており、柴田常恵が残した研究資料として、考古学史における価値は評価できる。

なお、さきたま史跡の博物館では、寄贈後、整理作業を進め、注記や添付されたラベル、國學院大學資料の拓本に記された採集地をまとめ、資料一覧を報告、公開している（2019野中・鈴木・宮原）。

本稿では、「古瓦」資料一覧を基に採集地を、近年出土資料の集成が進みつつある武蔵国分寺、及び武蔵国分寺に瓦を供給した窯跡群とする瓦について、新たに計測、図化し、基本情報をまとめることにしたい。また、報告資料に複数含まれている末野窯跡群の資料について若干の考察を加えたい。

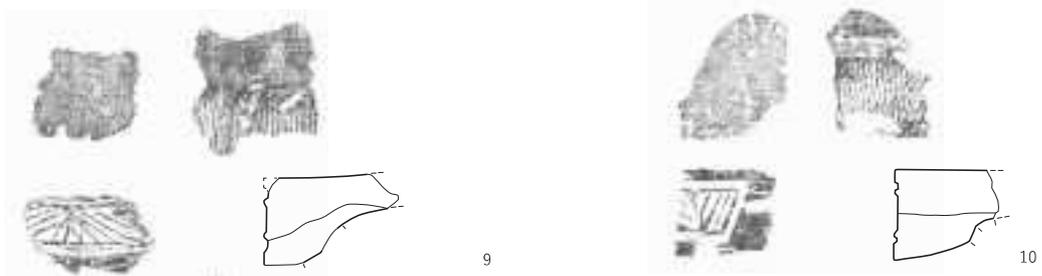
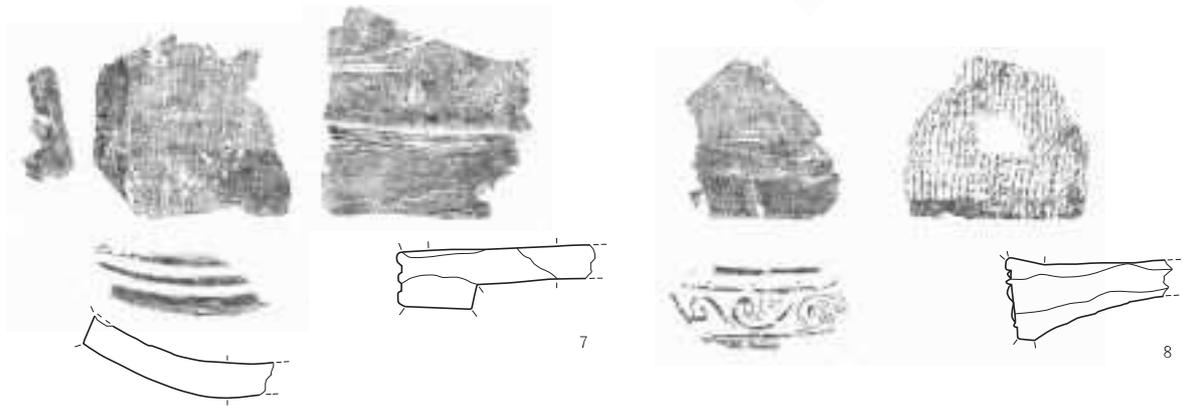
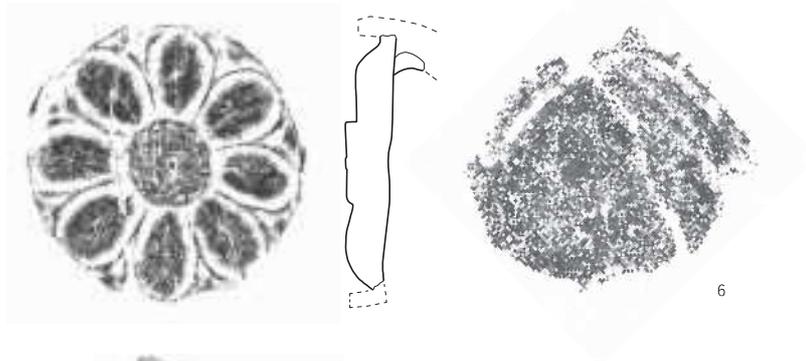
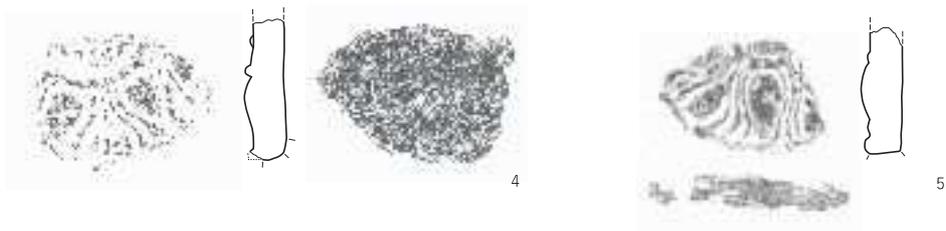
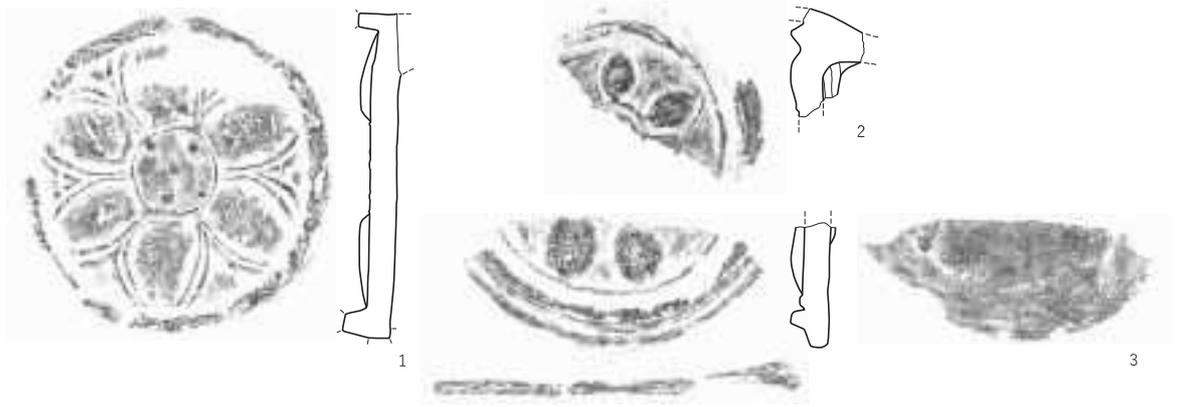
2 武蔵国分寺関係資料

(1) 分類作業

埼玉県指定有形文化財「古瓦」において、資料一覧では武蔵国分寺に関する資料は計38点とされている（野中・鈴木・宮原2019）。しかし、資料一覧の出土地・採集地は、資料やラベルに注記されている内容に従って作成されており、本稿のために実施した詳細な調査によって、同範瓦もしくは類似した瓦が確認され、採集地の修正を要するものがあつた。そのため、すでに公開している「古瓦」資料一覧について、本稿での報告をもって修正することとしたい。修正が生じた資料は観察表の出土・採集地の項目で、本来の採集地となる遺跡名を併記した。

これらの修正の結果、武蔵国分寺に関する資料は合計37点で、接合し1個体となるものもあることから、図示は32点となっている（第1図～第4図、表1～2）。なお、今回掲載した実測図、拓本はすべて筆者によるものである。

軒先瓦の分類に当たっては、『武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書Ⅱ—史跡保存整備に伴う事前遺構確認調査—〔遺物編〕』及び国分寺市遺跡調査会が刊行した『武蔵国分寺跡出土基礎資料集1 武蔵国分寺跡出土瓦集成—鎧瓦・宇瓦—』、及び『武蔵国分寺跡出土基礎資料集2 武蔵国分寺跡出土瓦集成—文字瓦—』、『武蔵国分寺跡出土基礎資料集3 武蔵国分寺跡出土瓦集成—文字瓦・墨書土器他—』に従った。また、同資料集では、鳥根県教育庁文化財課古代文化センターの『鳥根県古代文化センター調査研究報告書39 平塚運—古代瓦コレクション資料集（1）—武蔵国分寺関連資料・鎧瓦編—』、



第1図 軒丸瓦・軒平瓦 (S = 1/5)

『鳥根県古代文化センター調査研究報告書 44 平塚運一古代瓦コレクション資料集 (2) 武蔵国分寺関連資料宇瓦・鍔瓦補遺 平塚運一コレクション資料目録』で示された分類基準に沿っていることから、本稿でもこれに準拠し分類作業をおこなった。

なお、武蔵国分寺の軒先瓦の型式番号は、全ての出土資料を網羅したものは正式に公表されていないが（国分寺市遺跡調査会 2018、依田 2018、依田 2019）、文様を明確に示すため前述の報告書や資料集を参照し、使用させていただいた。

(2) 軒丸瓦

1は素弁六弁蓮華文で、資料一覧の報告では単弁としたが素弁の誤りである。武蔵国分寺軒先瓦型式では 22 型式が設定されている。蓮弁は膨らみと二重の稜線で表現されている。武蔵国分寺出土例は少なく、昭和 39 年の発掘調査において、塔跡 1 からの出土 1 例のみとなっている（依田 2018）。胎土は少々荒く、10mm 以下の石英のほか、2mm から 5mm ほどの黒色、褐色のスコリア状の石を含んでいる。瓦当裏面には「末野赤岩窯」と注記されているが、胎土の様相からも末野窯跡群で生産されたもので間違いなからう。なお、同範とみられる資料が末野窯跡群出土、吉田義明氏所蔵として『武蔵国分寺の研究』で紹介されているが、本資料と同一品であるかは不明である（石村 1960）。

2は素弁六弁蓮華文である。中房の蓮子は破損により全容が不明であるが、蓮弁から 26 型式と判断した。内区外側及び外区を指ナデで整えている。丸瓦部は瓦当裏面上端より下がった位置に接合し、接合部支持土は丸瓦に沿って指ナデされる。胎土から東金子窯跡生産品と考えられる。

3は素弁六弁蓮華文である。29 型式のいずれかと考えられるが、弁の形状などから 29 - D 型式の可能性が最も高い。弁は盛り上がり強く、それぞれの形が異なる。蓮弁が五弁のもの（鳩山窯跡群軒丸瓦 4 類）が広町 B 灰原から出土している。鳩山窯跡群軒丸瓦 4 類の裏面には縄叩きが残るが、本資料は全面ナデ調整が施されている。東金子窯跡群の生産とみられる。

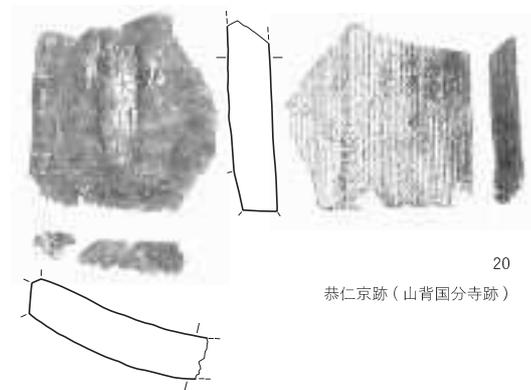
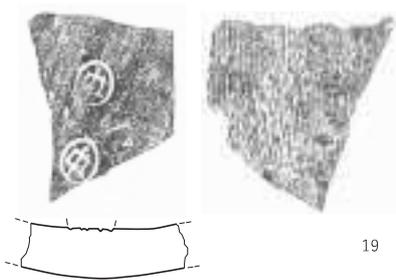
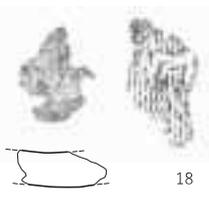
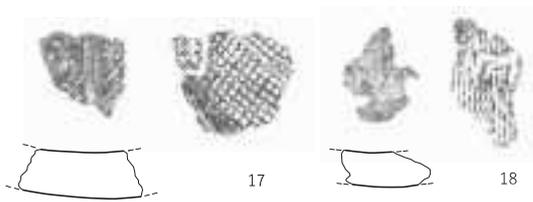
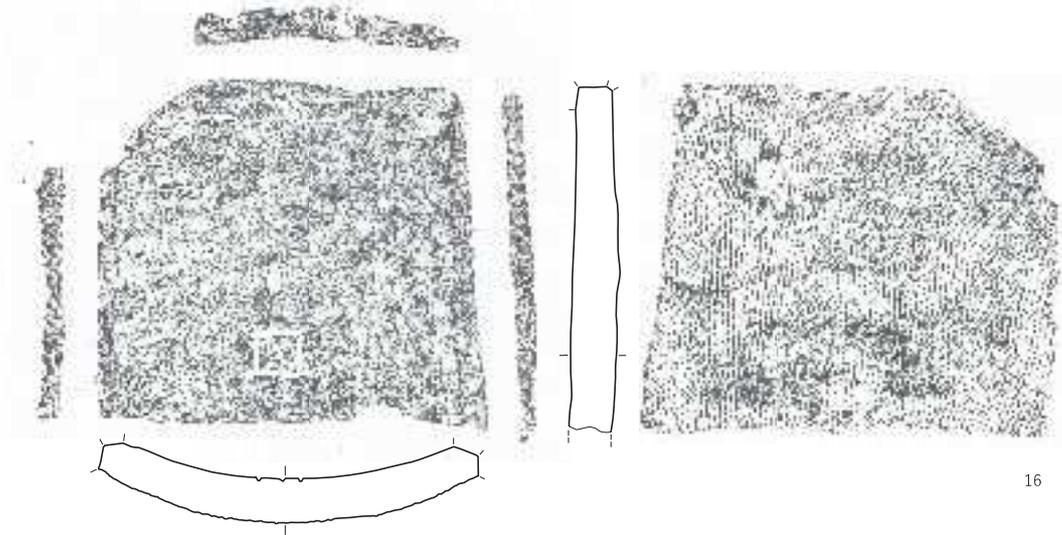
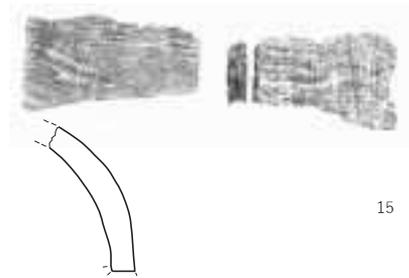
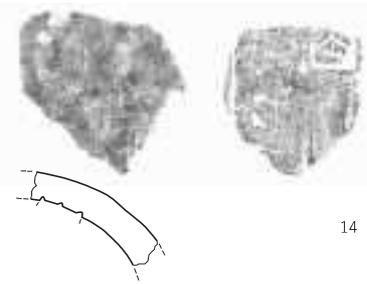
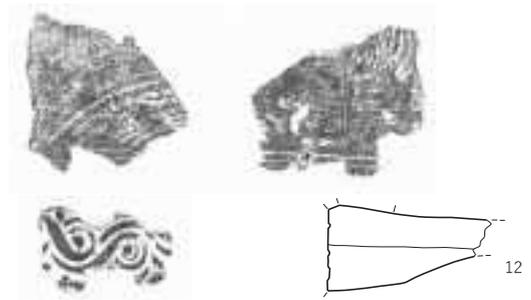
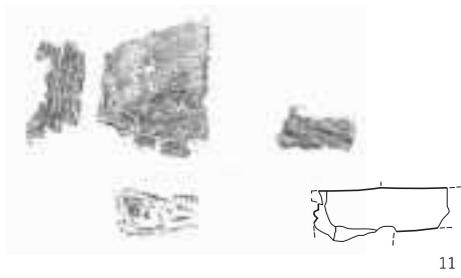
4と5は素弁七弁蓮華文である。全ての蓮弁と間弁の先端部に珠文が配置されていることから 61 - B 型式と判断した。なお、61 - A 型式は文様構成が類似するが、中房蓮子 1 + 6 で、弁の先に珠文がみられないものである。胎土には白色針状物質は見られなかった。

6は素弁八弁蓮華文で、採集地は不明とされるものである。これまでに武蔵国分寺跡、南比企窯跡群での出土が知られる。文様、法量、弁の範傷が 97 - A 型式と一致し、胎土には白色針状物質を含んでいることから、武蔵国分寺供給品、南比企窯跡群生産品と判断した。鳩山窯跡群小谷 B 第 11 号窯の煙道部右袖からは、中房に「父」の文字を陽刻で表現する素弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土している。この瓦の内区径は実測図からの計測で 17.0cm であり、本資料の 16.9cm とほぼ一致していることから、範が彫り直された可能性がある。つくりは本資料の接着技法に対して、小谷 B 資料は一本づくりであり、文様の変化とつくりの変化が認められる。

(3) 軒平瓦

7は三重弧文である。瓦当部は貼り付け技法によるもので、施文は瓦範である。平瓦部は粘土紐桶巻きづくりで、凸面は縄叩き後にナデ調整される。胎土には白色針状物質を含み、南比企窯跡群での生産品と考えられる。

8は均整唐草文、232 - B 型式である。東金子窯跡群で生産された八坂前窯跡 I - 1 類、新久窯跡 I 類とみられる。瓦当部の製作技法は貼り付け、顎の形態は曲線顎で下面が外反する。凸面は縄叩き後、瓦当面付近を横方向に削る。文様の構成は上外区に珠文があり、左脇区から内区にかけて範傷が



20
恭仁京跡(山背国分寺跡)

0 (1/5) 20cm

第2図 軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦 (S = 1/5)

ある。この範傷と交わるようにもう1本範傷がみられる。

9と10は均整唐草文、247-A型式である。9は右脇区付近、10は文様中心部のみ残存する。瓦当部製作技法は貼り付け、形態は段顎である。瓦当部下面及び平瓦部を縄叩きし、平瓦部との境を横方向ナデ調整する。胎土は非常に緻密で、東金子窯跡群生産品とみられる。

11は偏向唐草文である。282-B型式で左第1単位のみ残存する。瓦当面製作技法は接着技法である。凹面瓦当付近は横方向にナデ調整、凸面は縦方向にナデ調整をする。少量の白色針状物質が含まれ、南比企窯跡群生産品である。

12は偏向唐草文、284型式の第5、6単位部分である。武蔵国分寺跡のほか、日高市高岡廃寺、東金子窯跡群根岸窯跡で出土が確認されている。瓦当部の製作技法は貼り付け、額の形態は曲線顎である。瓦当上面付近をナデで調整し、下面は横方向に削りを施す。平瓦部の製作技法は粘土板一枚づくりで、凸面縄叩きである。

(4) 丸瓦

13及び14は資料一覧では平瓦としたが、丸瓦の誤りである。

13は凸面に方形押印「入」がみられる。粘土紐を模骨に巻き上げてつくる。粘土の幅は3cmである。凸面は縦方向にナデで調整される。南比企窯跡群で生産されたものである。

14は方形印「企（比企）」が凹面に押印される。粘土紐巻きづくりである。白色針状物質を含む南比企窯跡群生産品である。

15は凹面に刻書がみられる。内容は不明である。凸面は横方向にナデ調整する。胎土に白色針状物質を含み、南比企窯跡群生産品である。

(5) 平瓦

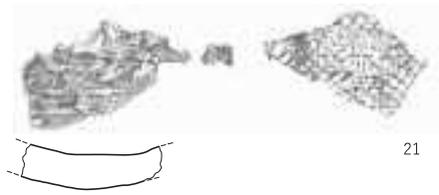
16は、粘土横紐一枚づくり、凸面は縄叩きである。凹面中央部には方形印「父」が押印される。側面の削り方向は、まず時計回りに削り、その後反時計回りに凹面側を削る。新沼窯跡出土品も同様の特徴を持つものが確認でき、さらに押印「父」は新沼窯跡12号窯で出土している。胎土からも南比企窯跡群で焼成されたものと考えられる。

17は最大3cmと厚さに特徴がある。凸面に方形押印がみられるが文字は判読できない。凸面は正格子叩きで、凹凸面ともに糸切り痕が明瞭に残る。糸切り痕が残り、粘土板一枚づくりである。南比企窯跡群生産品である。

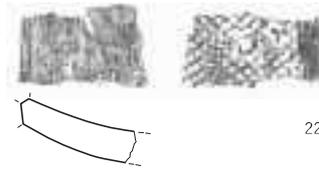
18は凸面縄叩きに方形印を押印するものである。判読はできないが「佛」にもみえる。粘土板一枚づくりである。胎土に白色針状物質を含む南比企窯跡群生産品である。

19は焼成が良好で、二次焼成または高温で焼成されたため、表面は黒く光沢をもつ。凸面は縄叩き後、圧が加わり縄叩きの痕跡がつぶれている。凹面に円形「中」印を2箇所押印する。武蔵国分寺跡出土例にも2か所押印するものが確認できるので（第5図1）、2か所押印に何らかの意味があったものと考えられる。末野第2支群でも採集例がある（石岡他1979）。

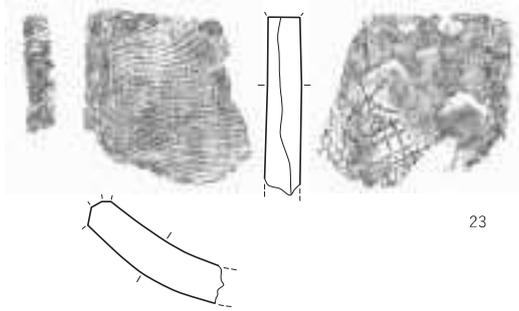
20は「大伴」の押型が凹面にみられる。『塩谷覺三郎所蔵全国古瓦目録』では、「国分寺」となっていて国分寺の前は空欄である。まとめる際に注記が読み取れなかったものとみられる。前回の資料一覧では、瓦に添付されていた札の「武蔵二十一」から武蔵国分寺採集品として扱っている。胎土は武蔵国内の生産品の特徴とは一致しない。そのため、明治大学日本古代学研究所「全国墨書土器・刻書土器、文字瓦横断検索データベース」を使用して全国の文字瓦について、類例を確認したとこ



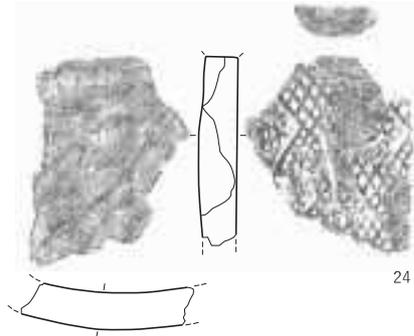
21



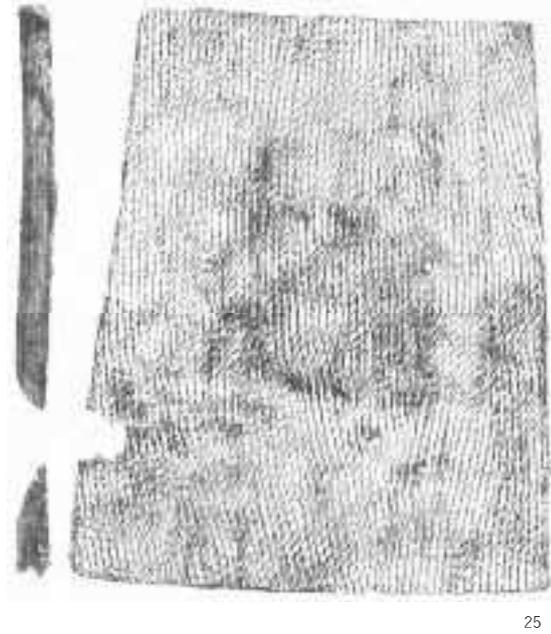
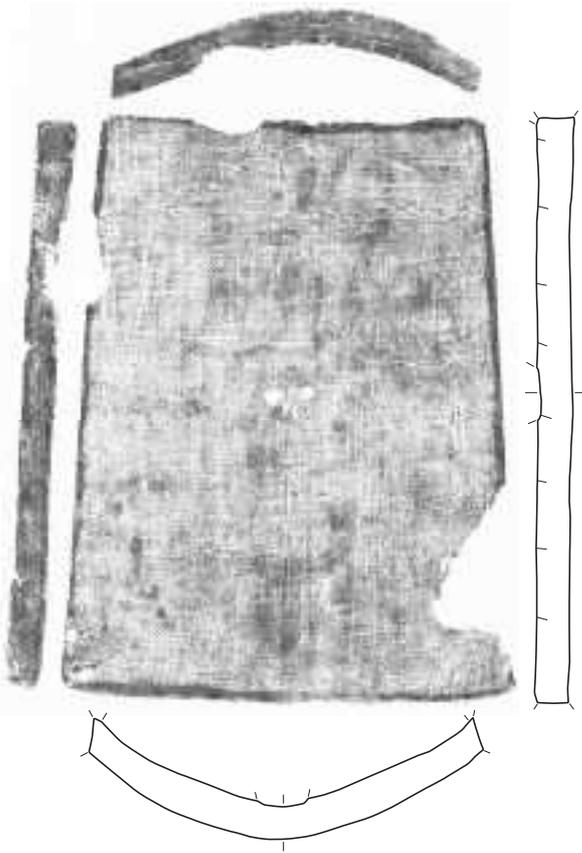
22



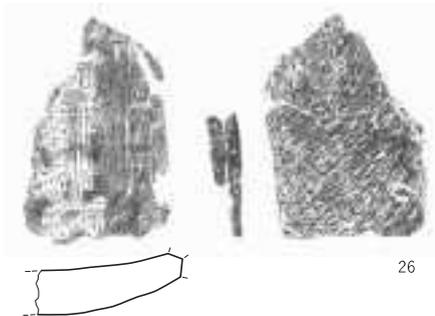
23



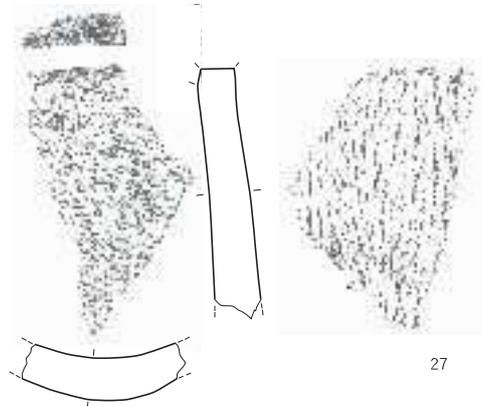
24



25



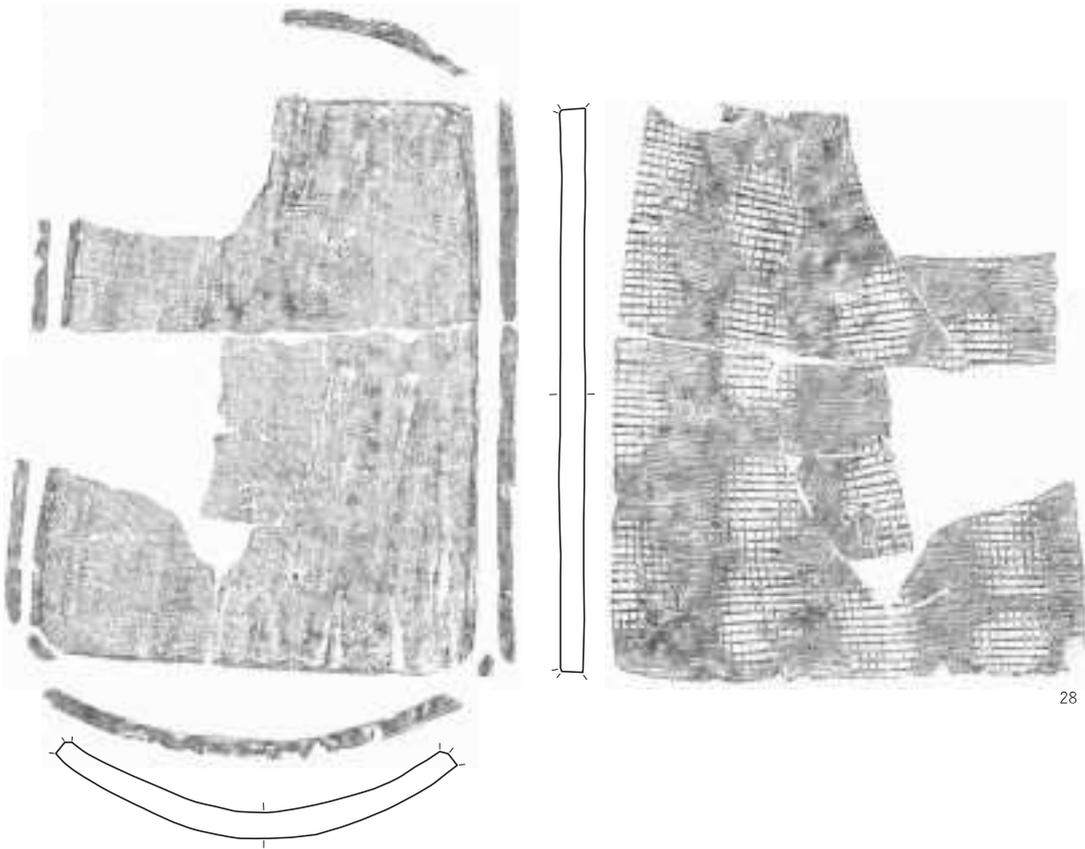
26



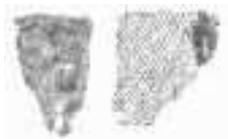
27



第3図 平瓦 (S = 1/5)



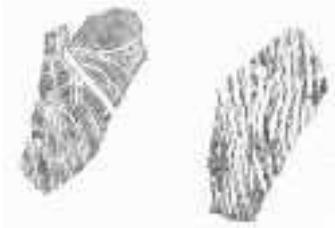
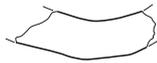
28



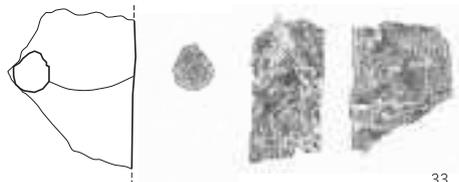
29



30



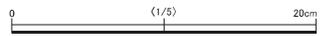
31



33



32



第4図 平瓦・埴 (S = 1/5)

ろ、恭仁宮跡出土瓦に類似するものがあつた。瓦分類B型式（B I型式）、分類KJ08とされる一枚づくり平瓦で、陽刻の押印を凹面に押印するものである。「大伴」の各文字の特徴が一致することから恭仁宮跡出土の瓦の可能性が極めて高いと考える。したがって、注記は恭仁宮の後進である「山背国分寺」であつたとみられる。

21は「加美」の押型文字をもつ。凸面全面を格子叩き後に横向きに施文する。凹面が剥離しており、元は軒平瓦の可能性があつた。南比企窯跡群生産品である。

22は反転した「加上」の押型文字をもつ。粘土紐一枚づくり。凸面は全面を叩き、その後施文する。凹面のナデは紐づくりの痕跡を無くすためとみられる。削りと面取りの方向は同一である。

23は「大里」を叩き具施文する。粘土板一枚づくり、胎土に白色針状物質を含む南比企窯跡群生産品である。新沼窯跡2～4次B区で出土例があつた。

24は「荏」を叩き具施文する。凹面は全面ナデ調整される。東金子窯跡群新久窯跡A地点第1号跡の窯跡内排水施設で出土例があつた。本資料も胎土が非常に緻密であり、東金子窯跡群産と判断した。

25は紐単位幅4.0～4.5cmの粘土横紐一枚づくりである。凸面は縄叩きを円弧状に施す。端部、側面削り後、凹面側に削りを入れる。凹面中央に成形台により「十」の文字を写す。旧目録には「亀井村？」とあるが、緻密かつ砂質でざらつく胎土、及び新久窯跡A地点第1号跡、第2号跡の窯跡内排水施設の出土例から東金子窯跡群の採集品の可能性があつた。

26は粘土横紐一枚づくりで、凸面は縄叩き後ナデ調整する。凹面に文字を書く際に、押し付けて記銘したため、さらに縄叩きがつぶれた可能性があつた。凹面に側面と並行して縦書きで「□珂郡那珂□」と刻書する。出土例の一つに個人所蔵で末野窯跡群の「那珂郡那珂郷」があつた（第5図2）。筆跡は本資料のほうが達筆であるが、共に側面付近に記す点は共通する。胎土は砂質で黒色スコリアを含むなど、末野窯跡群の生産品であると考えられる。

27は凹面端部付近に「荒」の刻書がみられる。凸面は粗縄叩きで、端部は凹面側に削りを施す。凹面の「荒」刻書は整っておらず、字に慣れていない者の記銘と考えられる。胎土は緻密、白色粘土が層状もしくはマーブル状になる部分があり、東金子窯跡群生産と考えられる。筆跡の似るものが、新久窯跡A地点第2号跡で出土している。

28は複数の資料が接合し1個体となつた。凸面は平行叩きと正格子叩きのセットである。正格子叩きは4列4回、重ならないように間隔を空けて叩く。凹面の中央広端寄りには判読不明であるが刻書で漢字を記す。「糸」と「主」の2字のようにもみえるが、荏原郡の「荏」の字が崩れた可能性が高い。胎土から南比企窯跡群生産品と判断した。

29は凹面側部寄りに刻書で「井」を記す。凸面は細縄叩きである。南比企窯跡群生産品である。

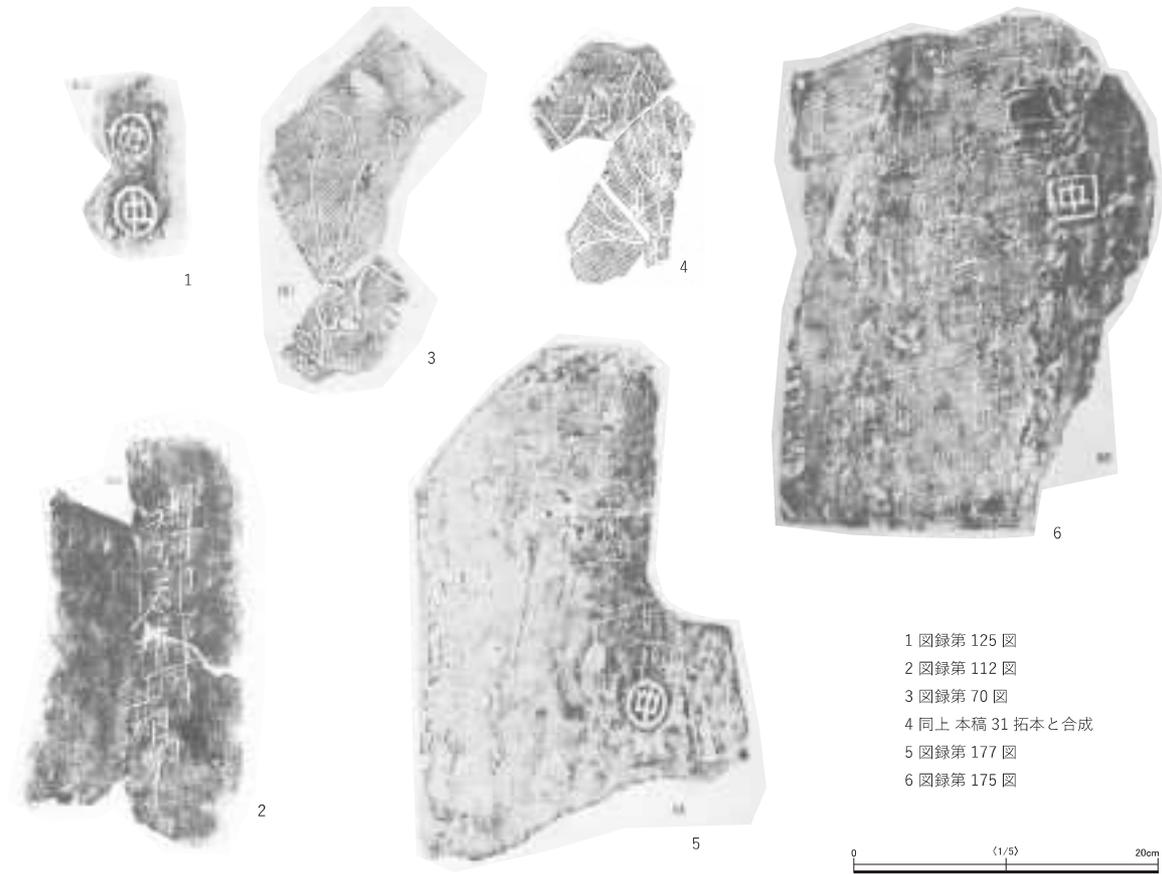
31は凹面に線刻の戯画が描かれている。全体像は一部のため不明。凸面は粗縄叩きである。胎土から南比企窯跡群生産品と判断した。柴田常恵が携わつた『東京府史蹟名勝天然記念物調査報告書』第5冊や石村喜英『武蔵国分寺の研究』本編第48図7で「根茎植物図」として紹介されている（石村1960）。さらに、今回拓本の確認で縮尺を合わせて並べたところ、石村の「第70図（4）菊科植物図」として掲載された戯画瓦の小破片と接合する可能性が高まつた（第5図4）。よつて、石村が別個体、別図として指摘した瓦は、同一個体であると考えられる。接合した図柄は横から見た蓮の花と漢字の「大」のようなものも見えるが全容は掴めず、植物の可能性があつたこと以上の結果には繋がらなかつた。

32は凸面を瓦範で叩く特殊な平瓦である。偏向唐草文281-Aの瓦範を使用している。一部は重なるように叩く。叩き後、側部を削り調整する。胎土から東金子窯跡群生産品と判断した。なお、本資

料の類似品が武蔵国分寺跡でも出土している。

(6) 塼

33は「古瓦」資料一覧では平瓦としたが塼の誤りである。「大里」刻書は側面側に記されるが、達筆である。胎土に白色針状物質を含むため、南比企窯跡群で生産されたものとわかる。



- 1 図録第 125 図
- 2 図録第 112 図
- 3 図録第 70 図
- 4 同上 本稿 31 拓本と合成
- 5 図録第 177 図
- 6 図録第 175 図

第 5 図 『武蔵国分寺の研究』 掲載瓦 (石村 1960 改変)

3 末野窯跡群出土資料について

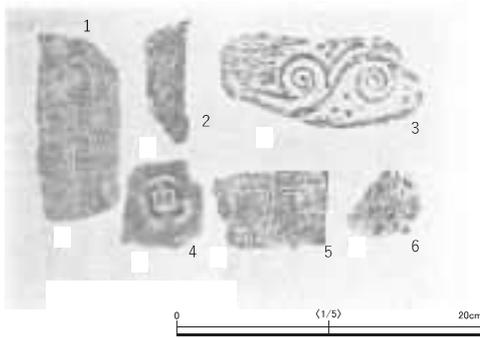
本稿で取り上げた資料には末野窯跡群の採集品が複数含まれている。貴重な生産地における資料として他の出土例と合わせて整理し、武蔵国分寺の瓦生産における末野窯跡群の性格について若干の考察をしてみたい。

末野窯跡群は埼玉県大里郡寄居町の荒川左岸の山裾や円良田湖周辺の谷筋に分布する武蔵国四大窯跡群の一つで、古代には那珂郡域に当たるとされ、秩父郡、児玉郡、榛澤郡、男衾郡と接している。発掘調査はこれまでに大正 13 年の金山窯跡を始めとして昭和 28 年、昭和 29 年、昭和 51 年、平成 5 年、平成 7 年に開発等に伴って数例実施された。昭和 53 年には分布調査が実施され、秩父郡長瀬町野上下郷小坂から荒川左岸を中心に東は花園、桜沢、富田までの広範囲に 19 支群もの窯跡の存在が確認された (1979 石岡・高橋・梅沢)。なお、大正 13 年 3 月 31 日には金山地区の 1 基が「末野窯跡」の名称で県の史跡に指定されている。これら発掘調査と分布調査によって、現在のところ TK209 の 7 世紀第 I 四半期から 10 世紀代に操業された窯跡が確認されている (福田 1998 他)。

末野窯跡群採集品は3点である。まず、21の素弁六弁蓮華文軒丸瓦は、文様の構成は弁の数が6で、武蔵国分寺において「整備拡充期（第Ⅱ期）」と呼ばれる八坂前窯跡をはじめ東金子窯跡群を中心に瓦生産が行われる時期の文様に類似する。この整備拡充期（第Ⅱ期）は、『続日本後紀』承和十二年（845）三月己巳条の前武蔵国男衾郡大領外従八位上壬生吉志福正が武蔵国分寺七層塔再建を願い出て許可された記事を基にする塔の再建、及びその後の武蔵国分寺僧尼寺の整備が進む時期で、これに伴って各窯での瓦生産が創建期以来の隆盛に至ったものと考えられる。末野窯跡群もその一つであったと考えられる。本資料も整備拡充期の瓦の可能性はあるが、表採資料であり、かつ後述するように表採された赤岩地区は創建期の瓦も出土していることから時期は検討を要する。なお、面径について、他の整備拡充期の六弁蓮華文軒丸瓦と比較すると、武蔵国分寺 26 - A 型式（八坂前Ⅲ - 2 類）、26 - C 型式（八坂前Ⅲ - 1 類）、27 型式（八坂前Ⅳ類・新久Ⅰ類）は面径 20cm に収まり、また創建期の軒丸瓦もほとんどが面径は 20cm にまともについて、面径 21cm の本資料は大きく、規格外ともいえる。ただし、面径 21cm を越える軒丸瓦は皆無ではなく、創建瓦でも古い段階に位置付けられている 83 - A 型式は 21.5cm、比企郡鳩山町久保瓦窯で出土した 81 型式は推定 22.4cm、十六弁蓮華文の 131 型式や特異文の 171 型式は 21.0cm と武蔵国分寺跡でも出土が数例確認できる。創建期の 83 - A 型式を除き、いずれも瓦当文様は特異なもので、本資料もそうした一群に含まれると考えられる。窯跡の表採であり単なる焼成不良の廃棄品ともとれる。しかし、武蔵国分寺所用瓦の生産においては文様を除いた共通の仕様を以って進められたであろうから、本資料は、共通仕様に基づかない単発生産品であった可能性がある。

本資料と組み合う軒平瓦については、軒丸瓦の採集地と同じ赤岩から出土した偏向唐草文軒平瓦が候補となるが（第 6 図 3）、文様からみると検討を要する。文様は破片のため全容は知りえないが 2 単位と主葉の上下に各 3 つ珠文を置く。拓本の観察から瓦当面には縄叩きが残っているようである。武蔵国分寺跡で出土する軒平瓦文様と比較して類似するものは 290 型式であったが一致するものはない。ただ、南比企窯跡群で創建期に生産される偏向唐草文に系譜を求められることから、この軒平瓦の時期は創建期が妥当であろう。

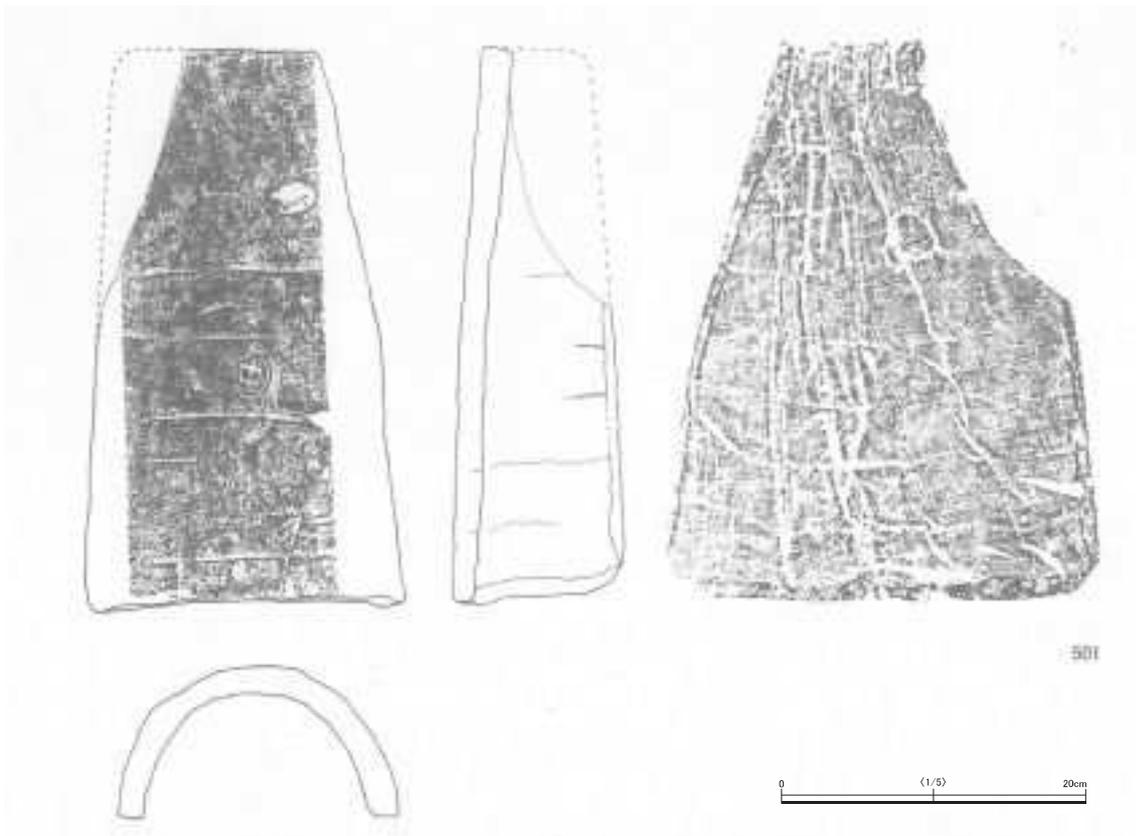
さらに、赤岩地区からは「那珂郡那珂郷」、「那珂郷」、「那」、「磨」、「十」の刻書、円形「中」押印が出土している（第 6 図）。このうち円形印「中」文字瓦は本稿 19 と同印関係にあり、さらに 26 の「□珂郡那珂□」は内容と記銘箇所において共通するため、両資料は赤岩地区で生産された可能性が高い。また、ここで注目されるのは、円形印「中」である。この円形印「中」と「宇遅マ牛万呂」の人名が記された文字瓦が金鑽神社所蔵として確認されている（第 5 図 5）。また方形印「中」が出土しており（第 7 図）（鹽谷 1923）、これと同じ方形印「中」に「□下忍万呂□」、同じく「中」方形押印に「宇遅マ大山」は末野窯跡群で生産された可能性がある。こうした郡名押印と人名の組み合わせは、南比企窯跡群金沢窯跡等で焼成された国分寺創建期の瓦の特徴で、同時期に末野窯跡群でも同じシステムで那珂郡の人名瓦を焼成していたと考えられる。また、円形「中」印は丸瓦、平瓦ともに出土しており、末野窯跡群では国分寺創建期に一定量の生産と供給があったものといえる。根拠たる資料も少なく今後の資料増加に期待したいところではあるが、国分寺所用瓦の生産の中心であった南比企窯跡群と同じシステムで瓦生産が行われていたことを考えると果たして補完的なものと表現してよいか疑問に思う。いずれにしても、末野窯跡群は、北武蔵において古くから操業し、古墳時代末には製品が周辺地域にとどまらず埼玉古墳群中の山古墳へ供給されるなど重要な位置にあり、かつ窯業という大きな基盤を有した那珂郡の氏族によって武蔵国分寺の創建や整備においても大きな役割を果たしていたといえよう。



第6図 赤岩出土瓦 (吉田 1954)



第7図 方形押印「中」(鹽谷 1923)



第8図 円形押印「中」丸瓦 (中道 2020)

4 おわりに

武蔵国分寺跡に関係する軒丸瓦5種6点、軒平瓦5種6点、文字資料19点、特殊瓦1点を報告した。今回の報告では既存の発掘調査出土資料との比較や肉眼ではあるが胎土を観察するなどして、できる限り生産地を示した。また、末野窯跡群の武蔵国分寺瓦供給について若干の考察を加えたほか、既存資料との接合関係を明らかにすることができた。

武蔵国分寺跡から出土した或いは採集された瓦は量、種類ともに非常に多い。特に軒丸瓦の種類や文字瓦の内容が多岐にわたることは、全国の国分寺と比較してみても特異といえよう。また、研究史

も長く、文字瓦などは古くから人々の興味を誘い数々の場所で報告されてきた。県指定有形文化財「古瓦」もその一つで今回の報告に際し文献を当たると、本稿の中で取り上げた資料も掲載されていることを知ることができた。また、肉眼ではなかなか判断が難しい資料であっても、未だ発掘調査に至らない窯跡があまたある武蔵国分寺瓦生産窯において、採集地を残した柴田常恵、塩谷覺三郎の功績は大きく本資料群の価値を改めて実感した。

本資料群は本稿で取り上げた以外にも全国から採集された良好な資料が数多く含まれている。今後も資料化を進めて広く周知したい。

参考文献

- 赤熊浩一 1999 『末野遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第207集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
有吉重蔵他 1981 『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報V—市立第四中学校建設に伴う第1次調査—』武蔵国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会
有吉重蔵 2000 「武蔵国分寺・武蔵国府」『文字瓦と考古学』日本考古学協会第66回総会国士舘大学実行委員会
石村喜英 1960 『武蔵国分寺の研究』明善堂書店
石岡憲雄・高橋一夫・梅沢太久夫 1979 「埼玉における古代窯業の発達(1)」『埼玉県立歴史資料館研究紀要』1 埼玉県立歴史資料館
上原真人 1984 「天平12、13年の瓦工房」『研究論集Ⅶ』奈良国立文化財研究所学報(第41冊) 奈良国立文化財研究所
大川 清 1958 『武蔵国分寺古瓦磚文字考』早稲田大学考古学研究室報告第5冊 小宮山書店
埼玉県 1984 『新編埼玉県史 資料編3』古代1 奈良・平安 埼玉県
鹽谷俊太郎 1923 「国分寺瓦焼場址」『埼玉縣史蹟名勝天然記念物調査報告書第1輯』埼玉県
手島美実子 2022 『埼玉県比企郡鳩山町南比企窯跡群総括報告書Ⅰ』鳩山町埋蔵文化財調査報告第47集 鳩山町教育委員会
中道 誠 2020 『武蔵国分寺跡出土基礎資料集2 武蔵国分寺跡出土瓦集成—文字瓦—』国分寺市遺跡調査会
中道 誠 2021 『武蔵国分寺跡出土基礎資料集3 武蔵国分寺跡出土瓦集成—文字瓦・墨書土器他—』国分寺市遺跡調査会
野中仁・鈴木秀雄・宮原正樹 2019 「長瀬総合博物館旧蔵県指定文化財「古瓦」目録」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第12号 埼玉県立さきたま史跡の博物館・嵐山史跡の博物館
昼間孝志 1994 『桜沢窯跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第143集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
福田 聖 1998 『末野遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第196集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
三輪善之助 1924 「武蔵寄居町の窯址」『人類学雑誌』第39巻第2号 日本人類学会
吉田章一郎 1954 「埼玉県大里郡寄居町末野の窯址調査」『考古学雑誌』第40巻第1号 日本考古学会
依田亮一 2018 「第5章成果と問題点 2 軒先瓦の様相」坂詰秀一・酒井清治編『武蔵国分寺跡発掘調査報告書Ⅱ—史跡保存整備に伴う事前遺構確認調査—(遺物編)』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
依田亮一 2019 『武蔵国分寺跡出土基礎資料集1 武蔵国分寺跡出土瓦集成—鏡瓦・宇瓦—』国分寺市遺跡調査会
寄居町教育委員会町史編さん室 1984 『寄居町史』原始古代中世資料編 寄居町教育委員会
平石 充他 2008 『平塚運—古代瓦コレクション資料集(1)—武蔵国分寺関連資料・鏡瓦編—』鳥根県古代文化センター調査研究報告書39 鳥根県教育庁文化財課古代文化センター
東山信治他 2011 『鳥根県古代文化センター調査研究報告書44 平塚運—古代瓦コレクション資料集(2) 武蔵国分寺関連資料宇瓦・鏡瓦補遺 平塚運—コレクション資料目録』鳥根県教育庁文化財課古代文化センター

表 1 埼玉県指定有形文化財(考古資料)武蔵国分寺跡関係資料観察表(1)

図版番号	番号	資料番号(SAM2013-02-)	器種	出土・採取地	法量(cm)	焼成色調	胎土	残存	調整等	台帳表記文様	台帳表記型式	國學院大学拓本
1	1	026	軒丸瓦	末野窯跡群	全長 - 瓦当径 21.0 内区径 18.5 外縁幅 1.0 外縁高 1.5 瓦当厚 2.4	2.5Y5/3黄褐色	石英 長石 褐色スコリア 末野	1/2	凸面 - 凹面 - 側面 - 製作 接着、瓦当裏面ナデ	6BCa	22	
1	2	283	軒丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 瓦当径 (7.2) 内区径 (5.2) 外縁幅 1.0 外縁高 0.9 瓦当厚 2.1	5Y6/1灰	石英 長石 東金子	1/4	凸面 ナデ 凹面 ナデ(支持土に沿って) 側面 削り 製作 接着技法、瓦当裏面ナデ	6BCa	26	(8)-11-35 武蔵国分寺 家蔵
1	3	042	軒丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 瓦当径 (8.0) 内区径 (4.5) 外縁幅 0.9 外縁高 1.0 瓦当厚 2.5	5Y4/1灰	石英 やや砂質 東金子	1/5	凸面 - 凹面 - 側面 - 製作 接着、瓦当裏面ナデ	6BAa	29D	(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
1	4	072	軒丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 瓦当径 (9.0) 内区径 (6.0) 外縁幅 1.0 外縁高 1.0 瓦当厚 2.6	5Y5/2灰オリーブ	石英 長石	1/5	凸面 - 凹面 - 側面 - 製作 不明、瓦当裏面ナデ	7BCB	61B	(8)-11-35 武蔵国分寺 家蔵
1	5	087	軒丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 瓦当径 - 内区径 - 外縁幅 1.0 外縁高 0.4 瓦当厚 2.6	5Y6/1灰色	石英 長石 緻密	1/6	凸面 - 凹面 - 側面 - 製作 接着、瓦当裏面ナデ	7BCB	61B	(8)-11-14 武蔵国分寺東北院 發見 家蔵
1	6	154	軒丸瓦	不明(武蔵国分寺)	全長 - 瓦当径 - 内区径 16.9 外縁幅 - 外縁高 - 瓦当厚 2.7	5Y5/1灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	2/3	凸面 ナデ 凹面 布目痕 側面 丸瓦部削り、凹面側削り 製作 接着技法、瓦当裏面ナデ	8ACB	97A2	
1	7	123	軒平瓦	武蔵国分寺	全長 - 上弦幅 - 下弦幅 - 弧深 - 厚さ 3.7	N4/0灰	白色針状物質 石英 長石(少量) 緻密 南比企	1/5	凸面 瓦当横方向ナデ、 平瓦部横方向ナデ、繩叩き 凹面 横方向ナデ、布目痕 側面 ナデ 製作 貼り付け 平瓦部粘土紐桶巻きづくり	G	3G	(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
1	8	050	軒平瓦	武蔵国分寺	全長 - 上弦幅 - 下弦幅 - 弧深 - 厚さ 5.3	5Y4/1灰	石英 黒色粒 やや砂質 東金子	1/10	凸面 荒繩叩き 凹面 布目痕、 側面 瓦当付近横方向削り 製作 貼り付け	KK	232D	(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
2	9	125	軒平瓦	武蔵国分寺	全長 - 上弦幅 - 下弦幅 - 弧深 - 厚さ 5.8	5Y5/2灰オリーブ	石英(微量) 非常に緻密 東金子	1/8	凸面 瓦当中繩叩き、 凹面 平瓦部中繩叩き、布目痕 側面 貼り付け	KK	247A	(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
1	10	272	軒平瓦	武蔵国分寺	全長 - 上弦幅 - 下弦幅 - 弧深 - 厚さ 6.0	7.5Y5/1灰	石英 長石 チャート 緻密 東金子	1/8	凸面 瓦当中繩叩き 凹面 布目痕 側面 ナデ 製作 貼り付け 瓦当裏面ナデ	KK	247A	
2	11	131	軒平瓦	武蔵国分寺	全長 - 上弦幅 - 下弦幅 - 弧深 - 厚さ -	5Y6/1灰色	白色針状物質 (少量) 長石 黒色チャート 南比企	1/8	凸面 平瓦部ナデ 凹面 布目痕、 側面 瓦当付近横方向削り 製作 削り、面取り 接着技法	HK	282B	
1	12	085	軒平瓦	武蔵国分寺	全長 - 上弦幅 - 下弦幅 - 弧深 - 厚さ 5.6	5Y5/1灰	石英 東金子	1/6	凸面 繩叩き 凹面 瓦当付近ナデ、糸切り痕 側面 貼り付け	HK	284	(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
2	13	227	丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 狭端径 - 広端幅 - 広端径 - 幅 - 厚さ 1.8	5Y6/1灰	白色針状物質 石英 長石 チャート やや粗い 南比企	1/10	凸面 粘土紐巻き 側面 縦方向ナデ、 凹面 方形押印「入」 側面 布目痕			(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
2	14	297	丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 狭端径 - 広端幅 - 広端径 - 幅 - 厚さ 2.5	5Y6/2灰オリーブ	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	1/8	凸面 粘土紐巻き 側面 縦方向ナデ 側面 布目痕、方形押印「命」			(9)-11-39 武蔵国分寺 家蔵
2	15	294	丸瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 狭端径 - 広端幅 - 広端径 - 幅 - 厚さ 1.9	5Y6/1灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	1/10	凸面 粘土紐巻き 側面 横方向ナデ 側面 布目痕、刻書不明 削り、凹面側面取り			(8)-11-12 武蔵国分寺金佛堂
2	16	027	平瓦	南比企窯跡群(武蔵国分寺)	全長 (23.1) 狭端幅 23.5 広端幅 - 幅 25.0 厚さ 3.0	2.5Y7/3浅黄	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	2/3	凸面 粘土横紐一枚づくり 凹面 中繩叩き、潰れあり 側面 布目痕、押印「父」 側面削り、凹面側削り 側面削り、凹面側削り			(6)-9-9 武蔵比企部龜井村泉井 比留間顯典氏蔵 大正一三、二、
2	17	278	平瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 狭端径 - 幅 - 厚さ 3.0	N4/0灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	1/10	凸面 粘土板一枚づくり 凹面 正格子叩き、 側面 方形押印判読不明 側面削り、糸切り痕			(8)-11-14 武蔵国分寺東北院 發見 家蔵

表2 埼玉県指定有形文化財(考古資料)武蔵国分寺跡関係資料観察表(2)

図版番号	番号	資料番号(SAM2013-02-)	器種	出土・採取地	法量(cm)	焼成色調	胎土	残存	調整等	台帳表記文様	台帳表記型式	国学院大学拓本
2	18	329	平瓦	武蔵国分寺	全長 (9.5) 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.2	N4/0 灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 中繩叩き、方形押印「佛」か 布目痕 -			
2	19	070	平瓦	武蔵国分寺	全長 (14.0) 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 3.1	N2/0 黒	石英(多量) 長石 スコリア 末野	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 中繩叩き、潰れあり 円形押印「中」2箇所 一部布目痕、ナデ -			(8)-11-35 武蔵国分 寺 家蔵
2	20	021	平瓦	恭仁宮 (山背国分寺)	全長 (12.9) 狭端幅 - 広端幅 (9.6) 幅 - 厚さ 3.0	5Y6/ 1灰	石英 長石 黒色粒 やや砂質	1/6	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 中繩叩き、潰れあり 全面ナデ 側面削り、凹面側面削り 端部削り、凹面削り			
3	21	121	平瓦 (軒平瓦)	武蔵国分寺	全長 6.5 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ (2.2)	5Y5/ 1灰	白色針状物質 石英 長石 南比企	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土横紐一枚づくり 正格子叩き、押型「加美」 -(剥離) -			(8)-11-35 武蔵国分 寺 家蔵
3	22	277	平瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.1	N4/0 灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土横紐一枚づくり 正格子叩き、 押型「(反転) 加上」 全面横方向ナデ 削り、凹面削り(面取り)			
3	23	276	平瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.6	5Y5/ 1灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 南比企	1/8	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 正格子叩き+押型「大井」 糸切り痕、布目痕 削り、凹面削り 狭端面削り、凹面削り			(8)-11-35 武蔵国分 寺 家蔵
3	24	230	平瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.4	5Y6/ 2灰オ リーブ	長石(微量) チャート 非常に緻密 東金子	1/8	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 斜格子叩き+押型「在」 全面ナデ - 狭端面削り			(8)-11-35 武蔵国分 寺 家蔵
3	25	086	平瓦	東金子窯跡群	全長 38.6 狭端幅 23.8 広端幅 26.5 幅 - 厚さ 2.4	5Y6/ 2灰オ リーブ	石英 長石 砂質 東金子	9/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土横紐一枚づくり 粗繩叩き 布目痕、粘土紐痕、 成形台(模骨)「十」 側面削り後ナデ、凹面削り 端面削り、凹面削り			
3	26	084	平瓦	末野窯跡群	全長 (15.5) 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.8	N6/0 灰	石英 長石 チャート 末野	1/6	つくり 凸面 凹面 側面 粘土横紐一枚づくり 中繩叩き後、ナデ 布目痕、 刻書「口珂郡那珂口」 削り、凹面削り			
3	27	088	平瓦	武蔵国分寺	全長 (16.5) 狭端幅 - 広端幅 (7.6) 幅 - 厚さ 2.6	5Y6/ 2灰オ リーブ	石英 長石 層状白色粘土 東兼子	1/8	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 粗繩叩き 布目痕、糸切り痕 刻書「荒」 端部削り、凹面削り			(9)-11-39 武蔵国分 寺 家蔵
4	28	179 181 194 195 197 203	平瓦	武蔵国分寺	全長 37.5 狭端幅 (13.0) 広端幅 27.6 幅 26.4 厚さ 2.0	5Y5/ 1灰	白色針状物質 石英(多量) 長石 チャート やや砂質 南比企	2/3	つくり 凸面 凹面 側面 粘土横紐一枚づくり 正格子叩き、ナデ 布目痕、刻書(判読不明) 削り、凹面削り(面取り)			(8)-11-17 武蔵国分 寺金堂趾 發見 家蔵
4	29	222	平瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.2	5Y5/ 1灰	白色針状物質 石英 長石 チャート 緻密 南比企	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 小破片のため不明 細繩叩き 布目痕(細)、刻書「井」 削り			(8)-11-28 武蔵国分 寺 武國 家蔵
4	30	301	平瓦	武蔵国分寺	全長 - 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 3.0	10YR 5/4に ぶい 黄褐	長石 チャート 赤色粒 緻密 -	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 中繩叩き 布目痕、刻書「乃」 -			
4	31	083	平瓦	武蔵国分寺	全長 (13.0) 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 2.2	5Y5/ 2灰オ リーブ	白色針状物質 (短い、少量) 石英 長石 南比企	1/10	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板一枚づくり 粗繩叩き 布目痕、糸切り痕 戯画(線刻、内容不明) -			(8)-11-35 武蔵国分 寺 家蔵
4	32	082	平瓦	武蔵国分寺	全長 (17.5) 狭端幅 - 広端幅 - 幅 - 厚さ 1.9	N7/0 灰白	長石(微量) 非常に緻密 東金子	1/6	つくり 凸面 凹面 側面 粘土横紐一枚づくり 瓦范(281A/D)叩き 布目痕 削り、凹面削り			
4	33	093	埴	武蔵国分寺	全長 - 幅 - 厚さ 5.9	N4/0 灰	白色針状物質 (少量) 石英 長石 南比企	1/8	つくり 凸面 凹面 側面 粘土板 削り後、ナデ 刻書「大里」			